

当院における低線量胸部 CT 検査による肺がん検診

肺がん CT 検診は、ヘビースモーカーの肺癌による死亡率減少に効果があることが
アメリカの無作為化比較試験にて証明されました。

(医学誌「Radiology」H22 年 11 月 3 日発表報告)

・ 肺がん死亡を減少させるためには、まず禁煙ですがその次に肺がん検診が重要です。肺がんは日本国内のがんによる死亡原因の 1 位を占めており、各市町村では、胸部単純 X 線写真と喀痰細胞診による肺がん検診が施行されています。日本国内でも以前から、肺がん検診に CT 検査を利用することで、胸部単純 X 線写真による検診よりも早期の肺がんが多く見つかるとの報告もありました。2011 年には、米国の大規模な臨床研究(30 年間 20 本/日以上喫煙歴を有する 55 歳以上の現在あるいは元ヘビースモーカー 5 万 3 千人対象)で、低線量の胸部 CT 検診の方が、単純 X 線写真の肺がん検診よりも明らかに肺がん死亡率を低下(約 20%)させることが報告され、低線量 CT 検診は、肺がん死亡を減少させる優れた検診方法としての地位を築きつつあります。

低線量(被ばく低減撮影方法)で肺がん CT 検診が受けられます。CT 検査による痛みや苦痛はありません。

・ 最近の CT 装置の著しい進歩により、非常に少ない放射線被ばく線量で CT 検査を受けられるようになりました。一般に胸部 CT 検査の被ばく線量は約 6.9mSv と言われていたますが、当院での検診目的の低線量胸部 CT 検査では約 3mSv で撮影します。単純胸部 X 線検査の被ばく線量は約 0.05mSv、胃 X 線検査(バリウム検査)の被ばく線量は約 0.6mSv です。東京とニューヨークの飛行機による往復でも自然放射線から約 0.2 mSv 被ばくするといわれています。年 1 回程度の CT 検査で身体に影響が生じるような線量には達しません。

・ CT 検査による肉体的苦痛はありません。必要な CT 検査を受けることで身体に異常がないかどうか分かり、また小さながんも発見可能で早期発見・早期治療につながる可能性が高まります。仮に異常が見つからなかったとしても「悪い病気かもしれない」という不安を解消することができ、安心という精神的な利点もあります。

自覚症状がなくても長期間の喫煙歴がある 50 歳以上の方は是非、当院での肺がん CT 検診をお勧めします。